

## 5 丹後広域振興計画

### (1) 今後の課題

#### 今後の課題 1

#### 丹後地域の活性化を牽引する観光振興

- 丹後地域への観光入込客数は、2003年は約630万人であったが、近年は海外も含めた他の観光地との競争激化の中で減少傾向で推移している。しかし、2015年の京都縦貫自動車道全線開通、2016年の山陰近畿自動車道（野田川大宮道路）の開通や「海の京都博」の取り組み、「海の京都DMO」の設立などにより、観光入込客は600万人前後で推移し、観光消費額も大きく増加している。ただし、日帰り客の増加により宿泊率は減少している。特に2017年については、台風18号、21号襲来により2004年以来の大きな被害が発生するなど、観光入込客数が減少した。
- 丹後産コシヒカリ、ブランド京野菜、ナシ、ブドウ、メロン、茶、丹後とり貝、丹後ぐじなど丹後地域の強みを活かした製品の増強や丹後王国「食のみやこ」を拠点とした丹後の「食」の魅力発信を進めるとともに、それらを支える基盤づくりとして、「丹後農業実践型学舎」、「海の民学舎」等による新規就業支援や後継者確保、農業経営の規模拡大による農地集積の加速化など担い手の育成・支援を行い、食を活かした産業振興を推進している。

#### 【課題】

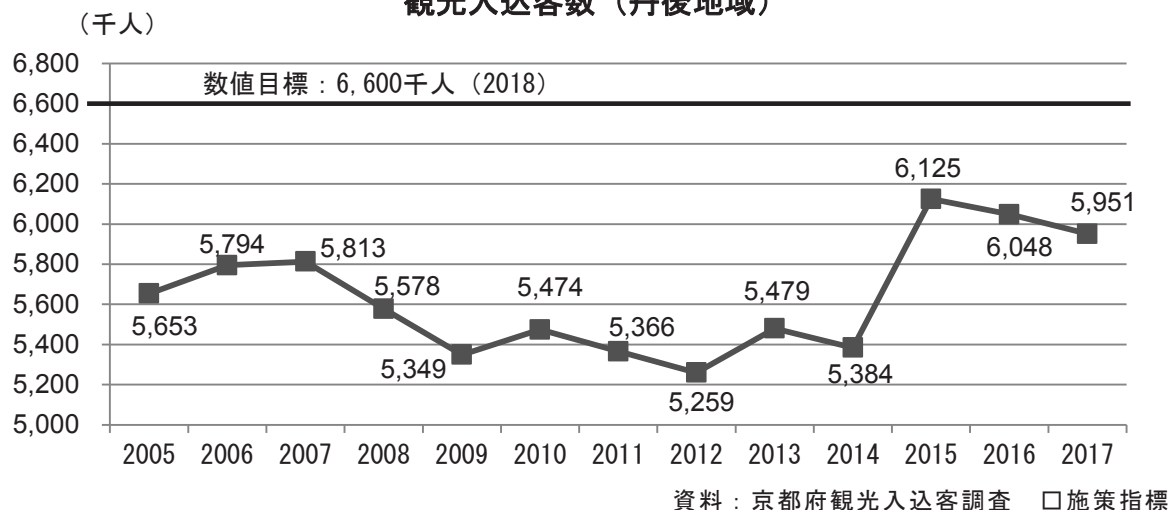
#### ☆「海の京都」の取組促進による滞在交流型の観光地域づくり

「海の京都DMO」と連携し、豊富な観光資源を更に磨き上げ、「丹後地域ならではのブランド」を築き、これらを活用した体験プログラムの開発や点在している観光資源を鉄道やバス、船等を活用して周遊するシステムを構築するとともに、宿泊施設の受け入れ環境の整備等外国人が安心して滞在できる環境づくりを行い、経済波及効果の大きい滞在交流型の観光地域づくりをさらに推進して、一人当たりの観光消費額を増やしていくことが必要である。

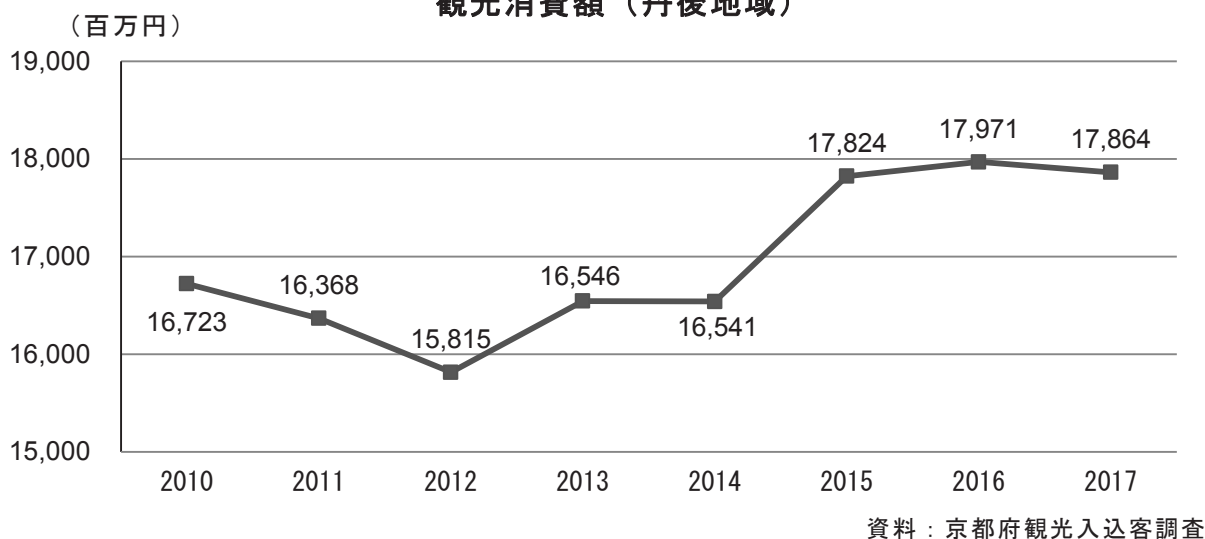
#### ☆観光との連携による食関連産業の創出

丹後王国「食のみやこ」を10次産業化の拠点として「食」の開発・販売を推進するとともに、「食」に関連する人材育成を展開し、観光との連携による食関連ビジネスの創出を進めることが必要である。

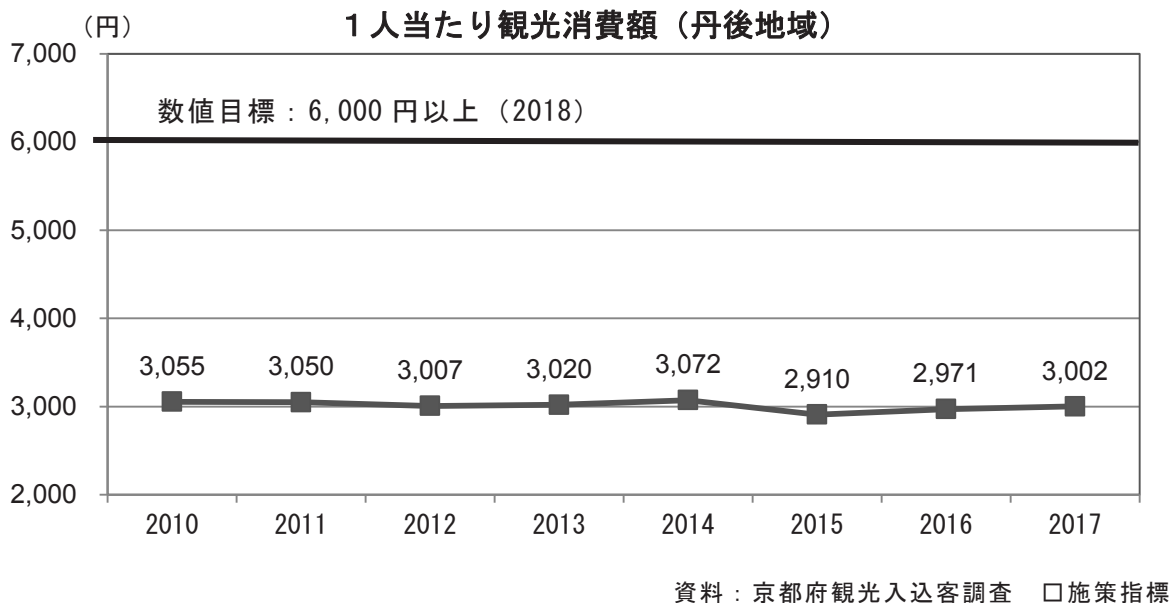
### 観光入込客数（丹後地域）

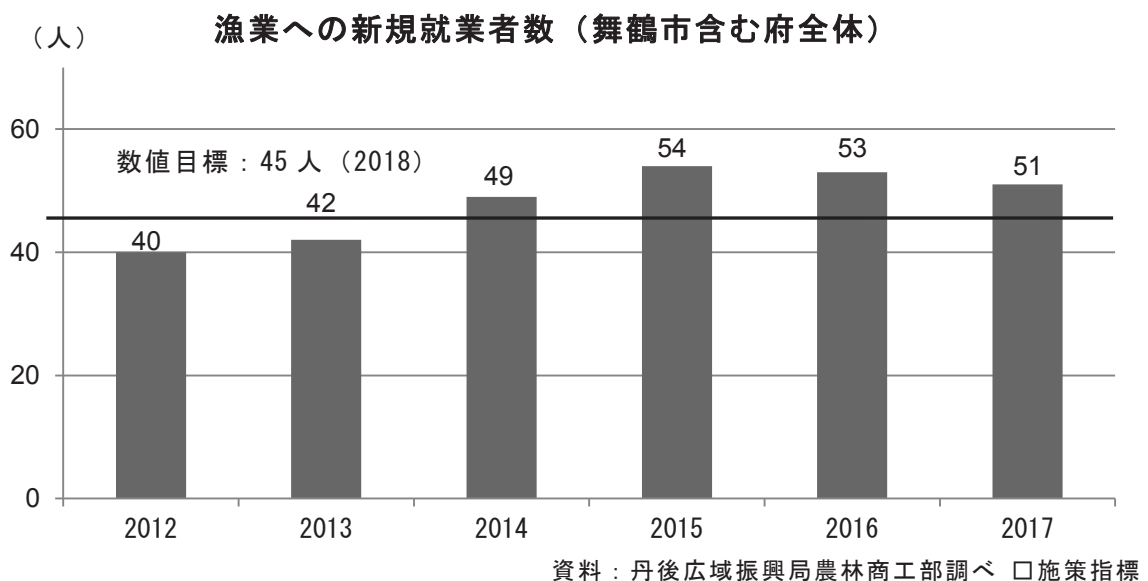
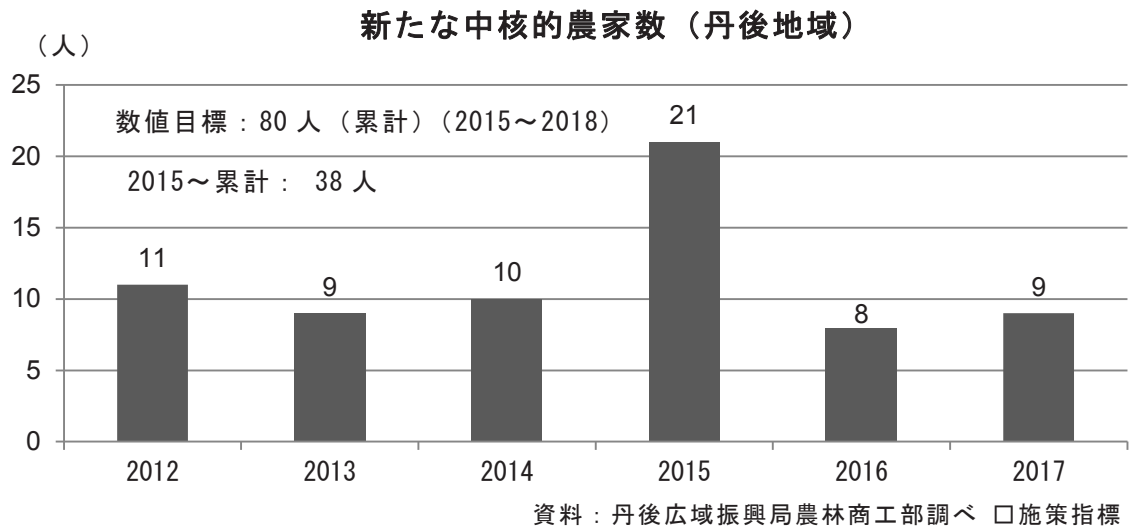
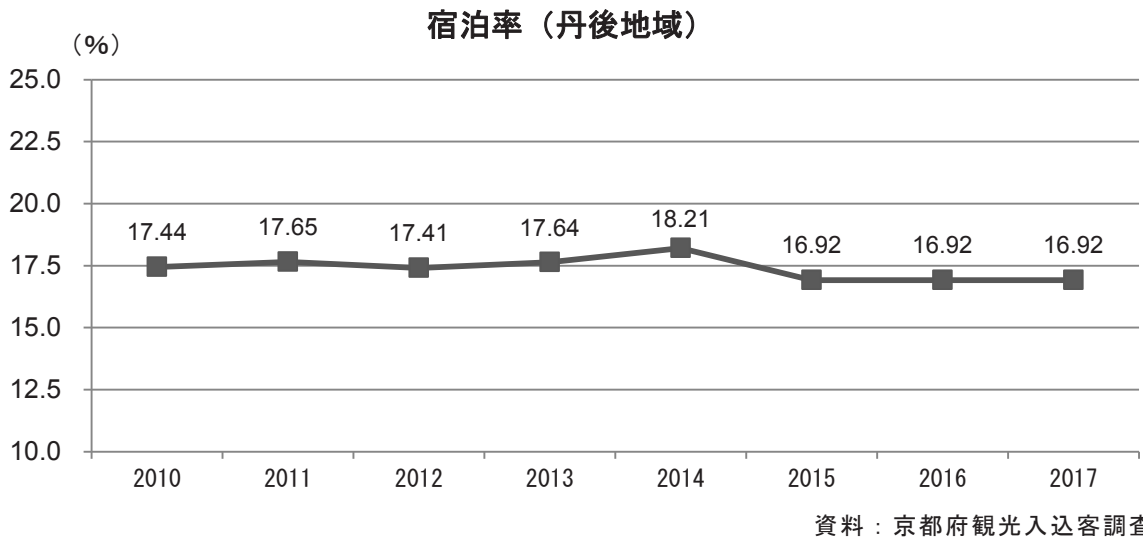


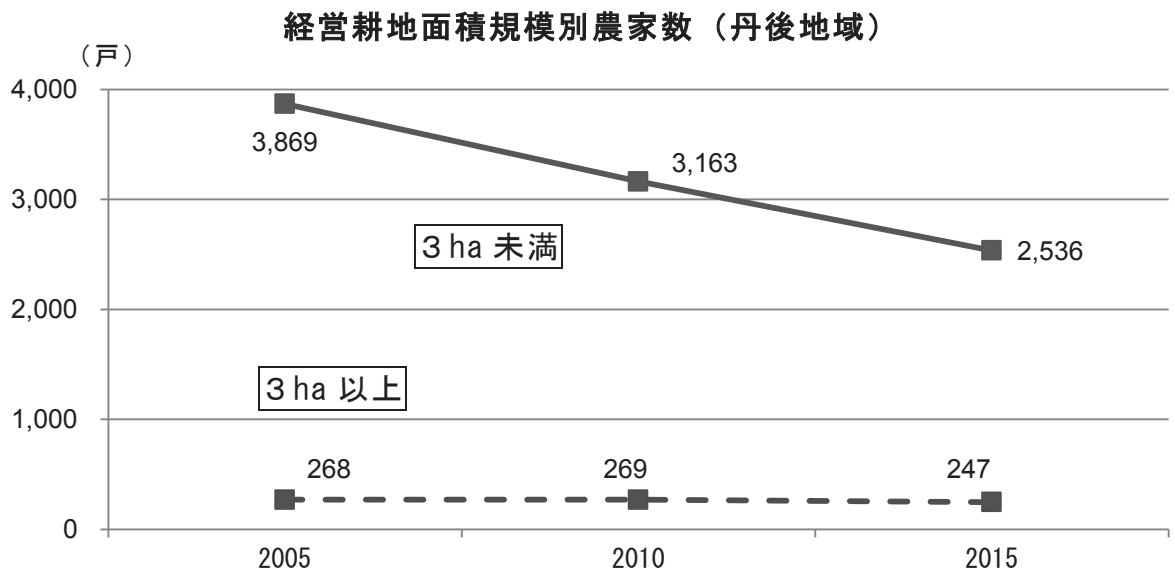
### 観光消費額（丹後地域）



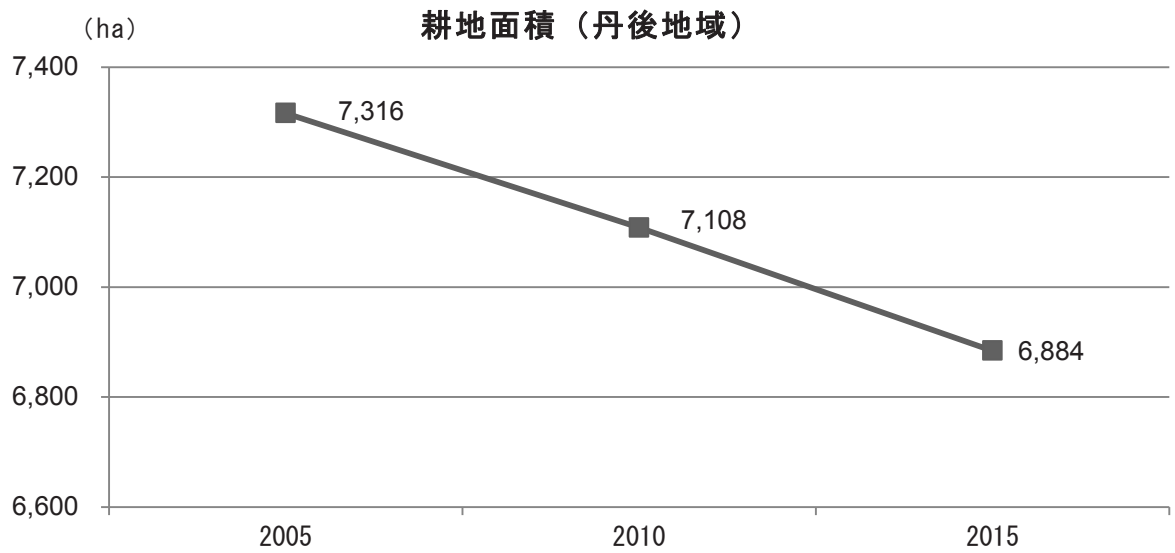
### 1人当たり観光消費額（丹後地域）







資料：近畿農林水産統計年報



資料：近畿農林水産統計年報

## ものづくり産業等地域産業の振興

- 府内の経済情勢は緩やかな拡大基調にあり、丹後地域においても製造業における受注量等が安定しているが、依然として地域における波及効果が実感できない状況となっている。
- 丹後地域は約 300 年の伝統を誇る「丹後ちりめん」の産地であり、織物業が基幹産業の一つとして地域経済を支えてきたところであるが、消費者の生活スタイルの多様化の中、和装需要の低迷等により、丹後ちりめんの生産数量の減少が続くなど依然として厳しい経営環境となっている。
- 機械金属業においても、高付加価値の商品づくりや企業競争力強化のための高度な加工技術をもった技術者の確保、高度加工に対応できる新規設備の導入等が求められており、2008 年 10 月に、中小企業のための総合的な拠点となる「丹後・知恵のものづくりパーク」を開設し、府北部のものづくり人材の育成や技術支援、新規産業の創出を支援している。
- 更に、進学等を機に丹後を離れる若者が多く、地域産業を担う人材確保が困難な状況であることから、2013 年 4 月に「北京都ジョブパーク」を開設、北部地域への U・I ターン促進の取組を進めており、U・I ターン者の就業者数は増加傾向にあるが、業種によっては人手不足の状況となっている。

### 【課題】

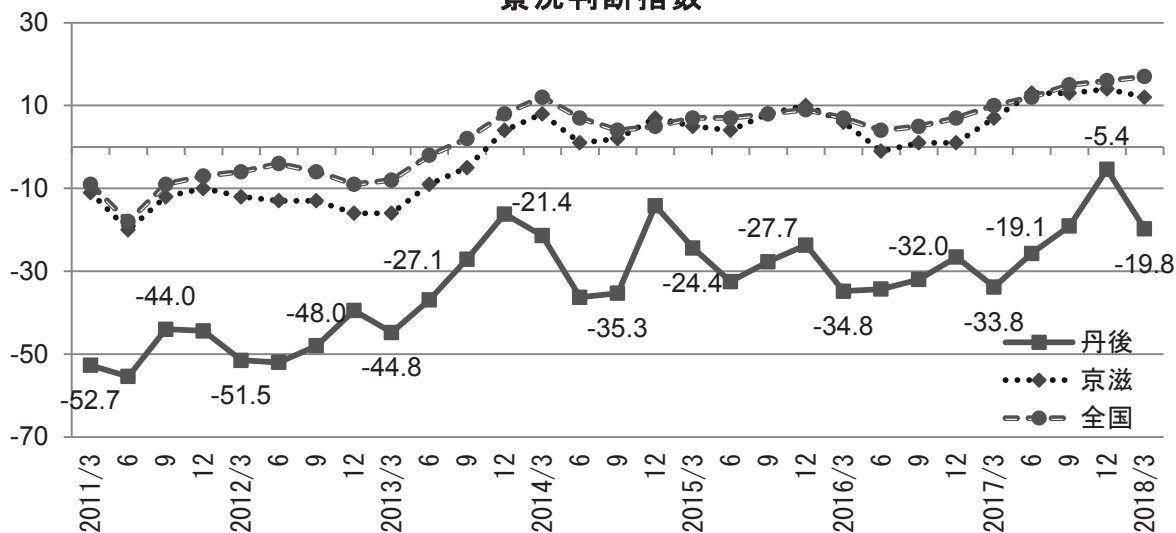
#### ☆深刻化する人材不足に対応するための人材確保対策

地域産業を担う人材不足が深刻化しており、企業の採用力を高めるためのセミナーの実施や、丹後地域に戻りたい、住みたいと考える若者等に対して、積極的に地域情報や企業情報等を発信することにより、U・I ターン等を促進するなど人材確保対策が待ったなしの状態である。

#### ☆「丹後ちりめん創業 300 年」などの取組による丹後ブランドの発信

2020 年に迎える「丹後ちりめん創業 300 年」や 2017 年 4 月の日本遺産認定を契機とし、織物文化と地域の魅力発信等を通じた「丹後の地域産業全体のブランド力」のアップ、子どもや若者が「夢」や「希望」を持てる地域づくりが必要である。

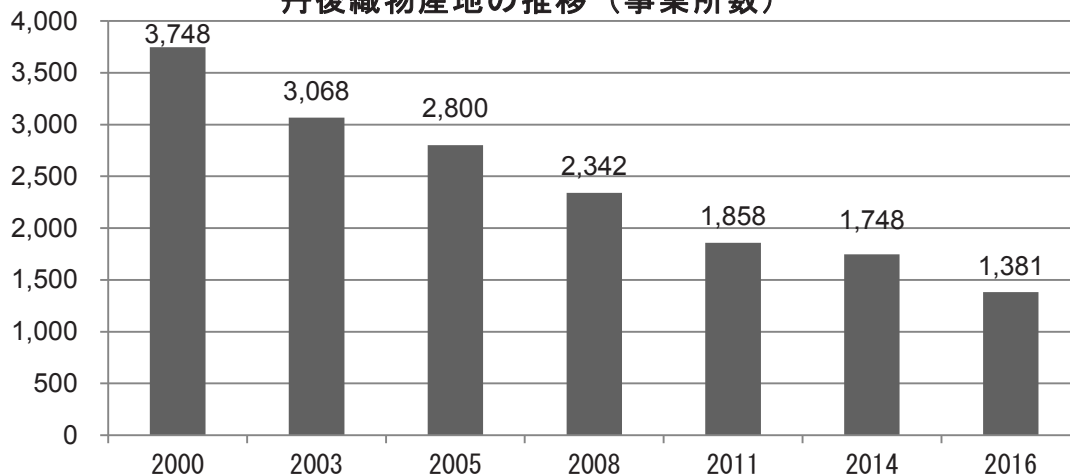
### 景況判断指数



資料：民間金融機関調べ ◆統計データ

(事業所)

### 丹後織物産地の推移 (事業所数)



資料：工業統計調査（京都府の工業）

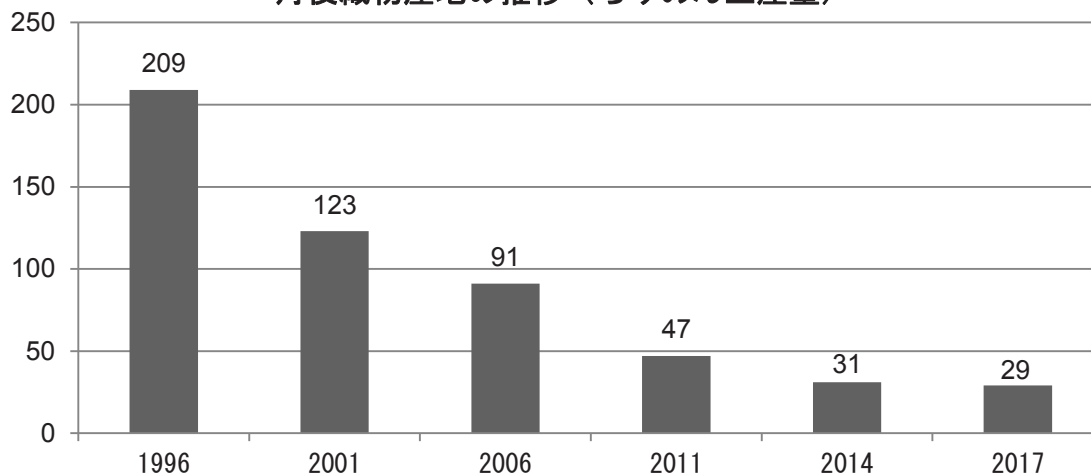
◆統計データ

※2011、2016は経済センサス - 活動調査

2014は経済センサス基礎調査で調査方法が異なるため参考値（総務省・経済産業省）

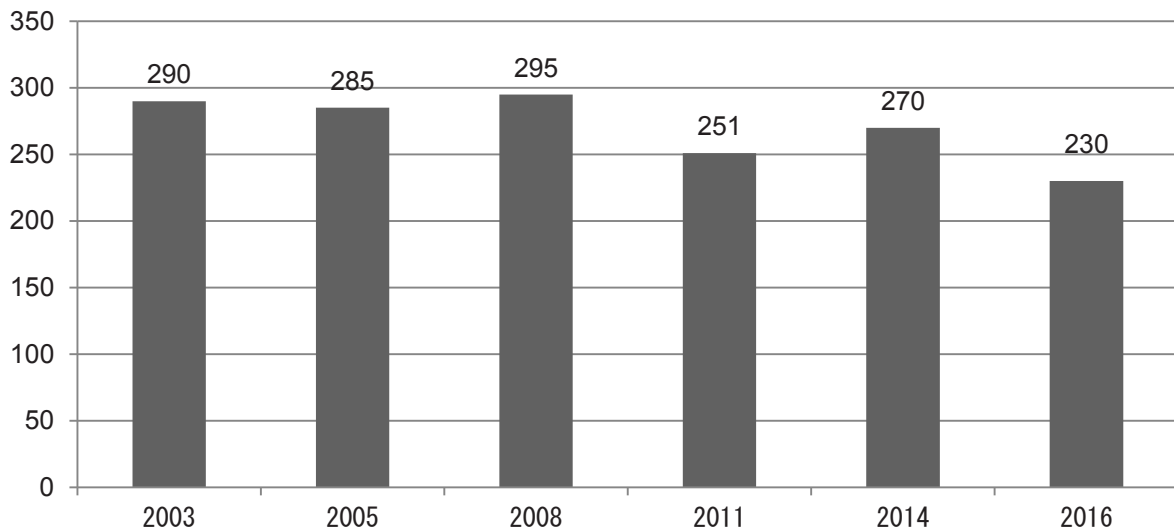
(万反)

### 丹後織物産地の推移 (ちりめん生産量)



資料：丹後織物工業組合調査 ◆統計データ

(事業所) **丹後機械金属業事業所数推移**



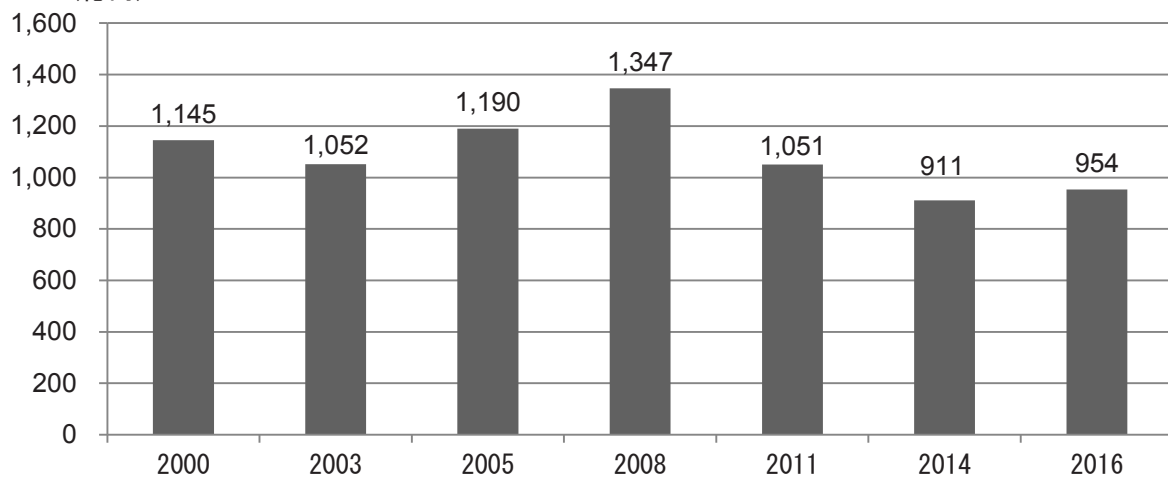
資料：工業統計調査（京都府の工業）

◆統計データ

※2011は経済センサス - 活動調査

2014は経済センサス基礎調査で調査方法が異なるため参考値（総務省・経済産省）

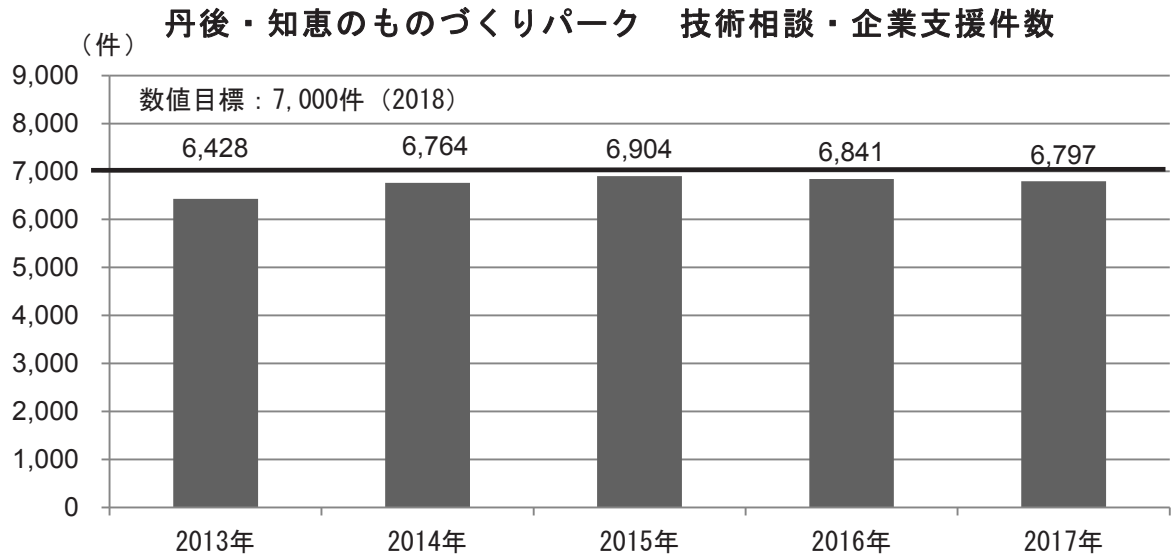
(億円) **丹後地域製造品出荷額(4人以上事業所)**



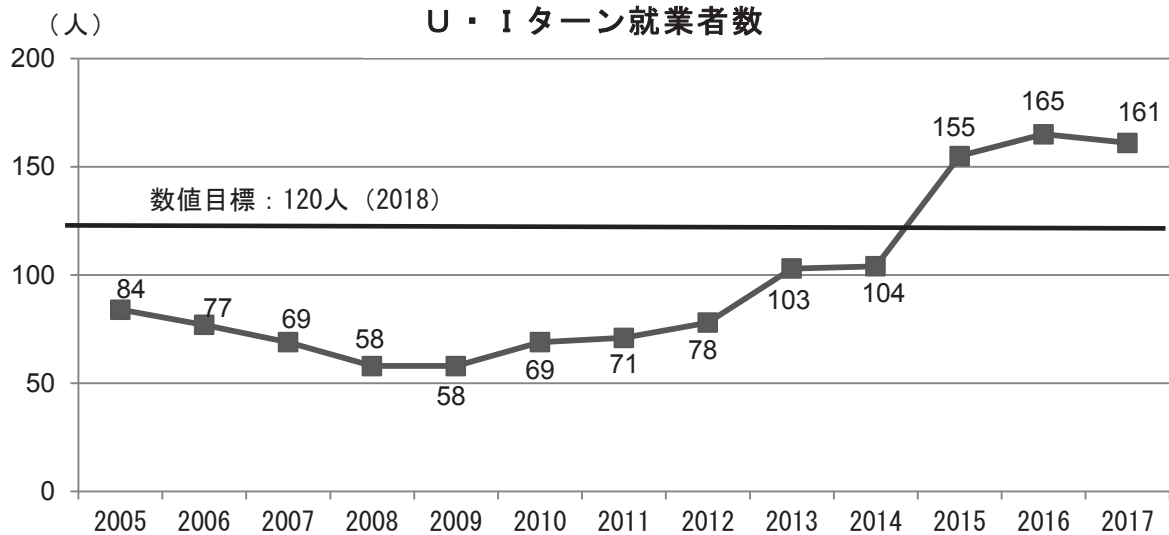
資料：工業統計調査（京都府の工業）

◆統計データ

※2011は経済センサス - 活動調査（総務省・経済産業省）



資料：京都府織物・機械金属振興センター調べ □施策指標



資料：北京都ジョブパーク調べ □施策指標



## 府民生活の安心・安全の確保等

- 2017年、2018年と大きな被害をもたらした台風・大雨による水害や地震、津波等の災害から府民を守るため、市町と連携し丹後地域特有の事情を踏まえた防災訓練を実施し、災害に強い地域づくりを支援している。
- 医師をはじめとする医療従事者が不足しているため、府立医科大学附属北部医療センターを「北京都安心医療拠点」とし、医師派遣機能強化など地域医療体制の充実を図る取組を展開している。
- 丹後医療圏域の死因の第1位である「がん」の早期発見、早期治療のため、がん検診受診勧奨を進めるとともに、府立医科大学附属北部医療センターで診断から治療まで一体的に実施できるがん診療棟を2020年春の診療開始に向けて整備している。
- 高齢化が府内で最も進む中で、認知症や慢性疾患を抱えた高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療や介護、福祉の各サービスが一体的に提供できる地域包括ケアの環境を整備するとともに、地域を支える福祉人材の支援スキル向上や虐待防止に関する知識を習得するための体制整備、人材育成・定着を支援している。
- 少子化が進む丹後において、病児・病後児保育施設拡大支援など、地域全体で子育てを進める仕組みづくりを推進している。
- 丹後地域は、20～30歳代の人口比率が府平均と比較して低率であるとともに、年々減少の一途となっており、地域の活性化を牽引する次世代の<sup>けん</sup>人材が不足している。

### 【課題】

#### ☆地域の実情に応じた防災対策の推進と医療・介護・福祉の更なる充実

地震による津波や水害、雪害等地域特有の災害などに対処するため、住民の力を結集した取組をまちづくりの段階から進め、ソフト・ハード両面から地域の安心・安全を確保するとともに、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、医療・介護・福祉を更に充実することが必要である。

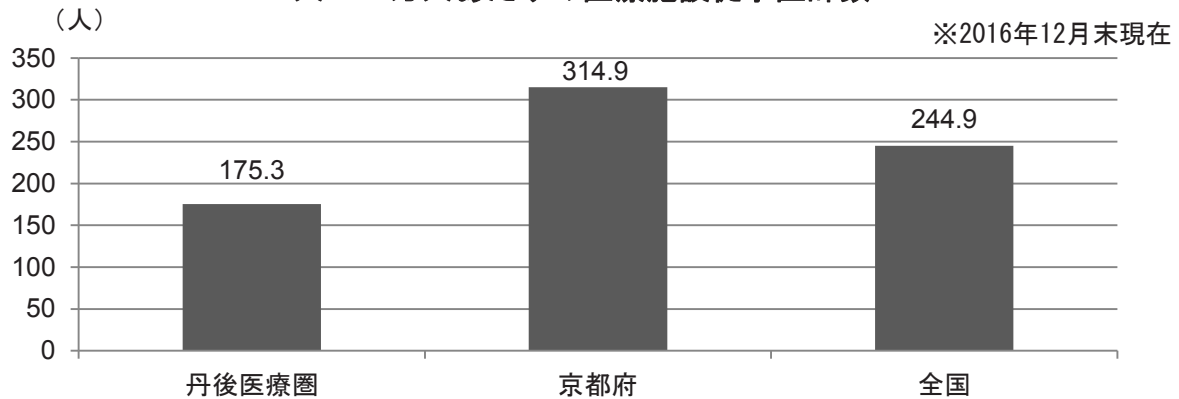
#### ☆健康長寿に向けた生活習慣病の発症予防、重病化予防の取組

丹後地域は、食塩摂取量が目標摂取量より多く、他地域に比べ日常生活における平均歩数が少ないなど、生活習慣病の発症リスクが高いため、地域住民対象の取組と併せて、働き世代を対象に生活習慣病の発症予防、重症化予防の取組が必要である。

#### ☆若者が誇りと愛着を持って暮らせる地域づくり

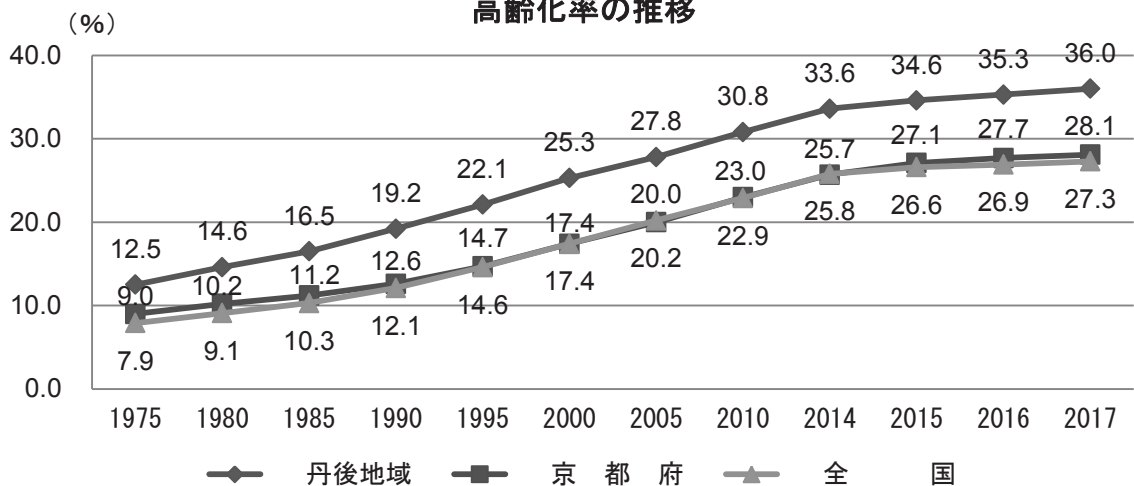
10～20年後の丹後を見据え、未来を担う子どもたちに丹後の自然・歴史・産業・文化を学習・体験する機会等を提供することで、ふるさとへの愛着を高め、地元定着者を増やすしくみづくりが必要である。

## 人口10万人あたりの医療施設従事医師数



資料：医師・歯科医師・薬剤師調査（厚生労働省） ◆統計データ

## 高齢化率の推移



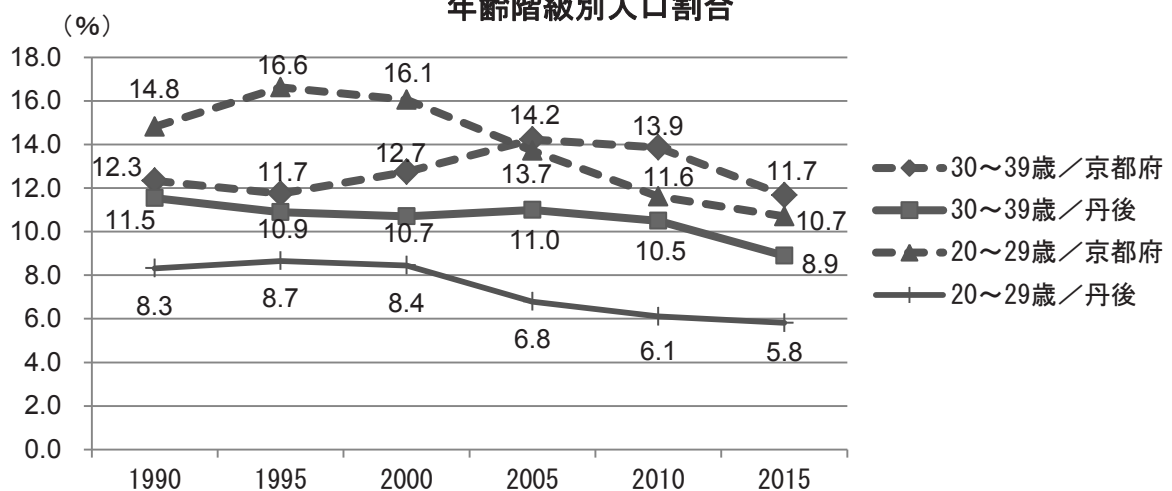
資料・2010年までは国勢調査

◆統計データ

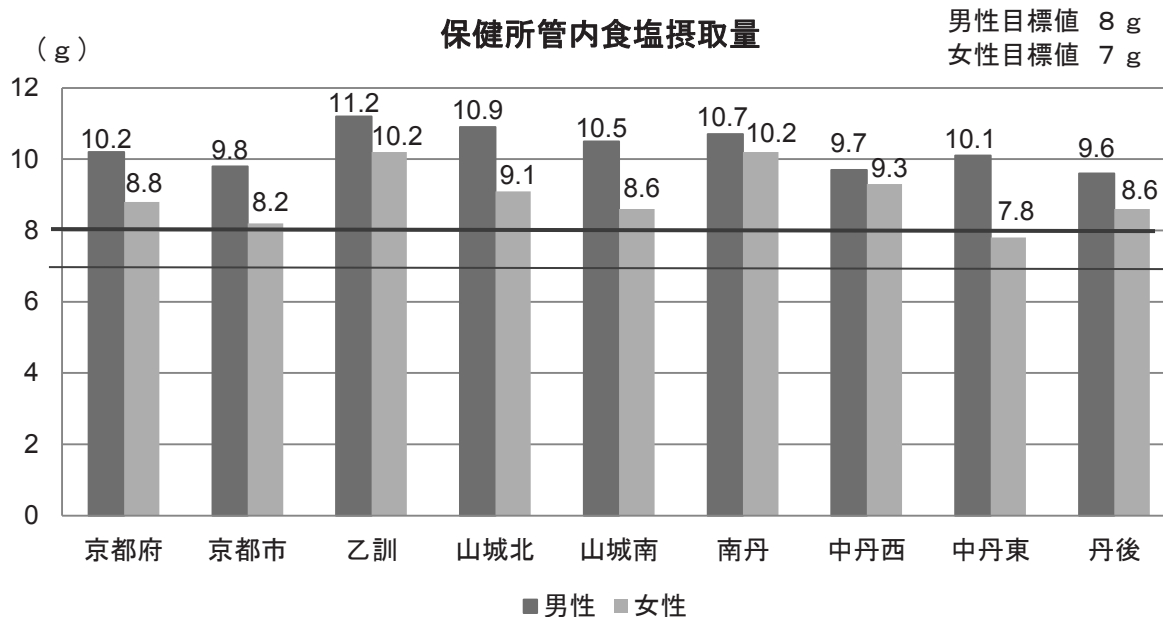
・2014年～2017年「全国」は総務省推計人口

・2014年～2017年「京都府・丹後地域」は住民基本台帳に基づく市町からの報告数値

## 年齢階級別人口割合

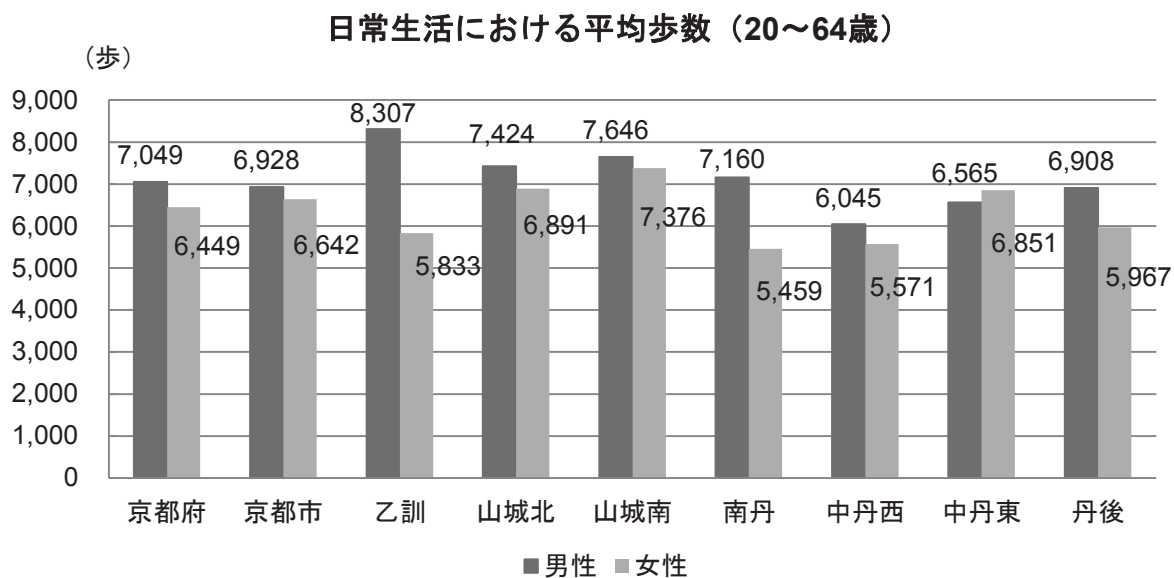


資料：国勢調査 ◆統計データ



資料：国民／府民健康栄養調査（2016） ◆統計データ

※2015年度京都・健康寿命向上対策事業報告書でも丹後地域は「保存食、発酵食、練り製品等塩分の多い食事が多い」と報告



数値目標：1日 20～64歳（男性 8,800歩 女性 8,400歩）65歳以上（男性 7,000歩、女性6,000歩）

資料：国民／府民健康栄養調査（2016） ◆統計データ

※2015年度京都・健康寿命向上対策事業報告書でも、丹後地域は「交通手段には自家用車が欠かせず、運動量が少ない」と報告

(2) 地域振興計画関連指標（数値目標） 2017年(度)進捗状況

〔進捗率の算出方法〕

- ①数値目標が「増加」の方向をめざしている場合  

$$\text{進捗率}(\%) = (\text{当該年(度)実績値} - \text{基準値}) / (\text{数値目標} - \text{基準値}) * 100$$
- ②数値目標が「減少」の方向をめざしている場合  

$$\text{進捗率}(\%) = (\text{基準値} - \text{当該年(度)実績値}) / (\text{基準値} - \text{数値目標}) * 100$$

	単位	基準値（基準年）	数値目標（目標年）	2016年(度) ベンチマーク レポート 実績値(A)	2017年(度) ベンチマーク レポート 実績値(B)
<b>丹後地域振興計画</b>					
84	万人	548 (2013年)	660 (2018年)	605	595
85	円	3,020 (2013年)	6,000 (2018年)	2,971	3,002
86	分	115 (2013年度)	90 (2018年度)	90	90
87	—	特A (2013年度)	特A (2018年度)	A	A
88	件	43 (2010～13年度)	新規50 (2015～2018年度)	40	54
89	万円	10,200 (2011～2013 年度平均)	15,400 (2018年度)	16,853	10,467

- 注1) 進捗率が計算不能となるもの(例: 数値目標=増加)等については「—」と記載した  
 注2) 「参考年間目標達成状況」欄は、参考年間目標を上回った指標を「○」と記載した  
 注3) 調査未実施・結果未公表等の理由で2016、2017年(度)実績値が記載できないものについては、備考欄に記載値の当該年(度)を記載した

進捗率 (%)	参考 年間目標 達成状況	数値変動の要因及び今後の取組内容	備考
42.0		冬期の大雪や夏季の悪天の影響のほか、9～10月の台風到来によるイベント中止が相次いだことが影響し、減少した。 府北部地域を「海の京都」として、「丹後グルメ月間」などの取組や四季を通じて「ほんもの」を楽しめる「ブランド観光地域」にするため、「旬の食材提供店」認定事業の取組など、地域の総力を結集して新たな魅力づくりを推進する。	
-0.6		2015年の京都縦貫自動車道の全線開通によってアクセスが向上し、日帰り客が増加したものの、単価の高い宿泊客数が減少したため、一人当たり消費額は微増となった。 府北部地域を「海の京都」として、「丹後グルメ月間」などの取組や四季を通じて「ほんもの」を楽しめる「ブランド観光地域」にするため、「旬の食材提供店」認定事業の取組など、地域の総力を結集して新たな魅力づくりを推進する。	
100.0	○	京都縦貫自動車道の全線開通によってアクセスが向上し、目標を達成した。 2009年度 与謝天橋立IC～宮津天橋立IC間開通 2012年度 大山崎JCT～沓掛IC間開通 2015年度 京丹波わちIC～丹波IC間開通 2016年度 京丹後大宮IC～与謝天橋立IC	
—		高温で出穂がバラついたことや、籾の充実期には日照不足で充実した米にならず食味がやや劣ったためAとなった。 特A奪還に向け、農家と関係機関が一丸となって「気象変動に負けない強いイネづくり」を合い言葉に、技術対策を徹底する。	
108.0	○	農業関係団体等と連携した農業ビジネスの掘り起こしを行う中で、京の食6次ビジネス創出事業等により、丹後の食を活かした異業種交流や6次産業化などの取組を支援した。 今後も各経営体の発展段階に応じた支援を継続する。	
5.1		丹後とり貝は、2015年度から販売額1億円以上を2年連続で達成したが、2017年度は高水温や餌料環境の悪化による生育不良で販売額が減少した。丹後ぐじ販売額は、近年2～3,000万円と比較的安定している。 丹後とり貝については、環境悪化時にも高品質かつ安定的に生産できるよう育成技術指導に努めるとともに、品質管理体制の強化によりブランド力の向上を図る。丹後ぐじについては、今後もブランド産地(水揚げ港)拡大やブランド力の向上に向け、漁業関係者との協議調整に努める。	

		単位	基準値（基準年）	数値目標（目標年）	2016年（度） ベンチマーク レポート 実績値（A）	2017年（度） ベンチマーク レポート 実績値（B）
90	新たな中核的農家の育成数	人	38（2010～13年度）	新規80（2015～2018年度）	29	38
91	漁業における新規就業者数（中丹地域を含む）	人	39（2011～2013年度平均）	45（2018年度）	53	51
92	中小企業による経営革新等の取組支援件数	件	49（2010～13年度）	新規60（2015～2018年度）	33	44
93	経営問題等に係るサポート件数	件	185（2013年度）	200（2018年度）	191	186
94	「丹後・知恵のものづくりパーク」における技術相談や人材育成を通じた企業支援件数	件	6,428（2013年度）	7,000（2018年度）	6,841	6,797
95	丹後地域へのU・Iターン就業者数	人	103（2013年度）	120（2018年度）	165	161
	山陰海岸ジオパークの「世界ジオパークネットワーク」再認定	—	再認定（2014年度）	再認定（2018年度）	—	—
96	海岸松林の保全・整備面積	ha	17（2013年度）	20（2018年度）	18	19
97	土砂災害防止法による土砂災害警戒区域等の指定箇所割合	%	約75（2013年度）	100（2018年度）	100	100

進捗率 (%)	参考 年間目標 達成状況	数値変動の要因及び今後の取組内容	備 考
47.5	○	2015年度から丹後農業実践型学舎の卒業生が地域の中核的農家として就農を開始し、コンスタントに就農しているが、学舎の応募が減少し、新規の法人もほとんどなく、参考年間目標に達していない。 今後は、実践型学舎の継続と集落営農の法人化の取組を強化する。	
200.0	○	漁業における新規就業者数は、海の民学舎の取組等により、目標を達成している。 引き続き、国の支援制度を最大限に活用しながら、「海の民学舎」の取組等を進め、新規就業者の確保を図る。	
73.3	○	管内企業についても各種支援制度に積極的にチャレンジしたが、府内全体の競争の中で採択に至らなかったため、件数としては減となった。 引き続き、経営革新を実践する中小事業者を支援するとともに、さらに、小規模事業者に対して、中小企業応援隊と連携しながら意欲と行動力ある企業を発掘する。	
6.7		依然として経営環境が厳しい中で、サポートの需要は徐々に高まっているが、慎重に取り組んだ結果微減となった。 中小事業者に対して、中小企業応援隊と連携をとりながら、効果的な設備投資等の支援策を的確に紹介するなど、経営安定と発展に向けた取組を支援する。	
64.5		織物関係で、若手の方からの織技術や染色についての相談が増えてきている。 今後は、技術相談や企業訪問の機会を利用し、企業が抱える課題等、ニーズをきめ細かく把握しながら、企業個別研修の開催や土日等や夜間の開催なども含めた人材育成研修等を実施する。	
341.2	○	地元企業の魅力・情報の発信等を市町やジョブパーク、事業者団体と連携して実施しているが、新卒学生を中心に「売り手市場」ということもあり、就業者数は減少している。 高校卒業者や成人式出席者へのUターン登録の推進、都市部大学へのPR、就職フェアや企業説明会の開催など、U・Iターンの確保及び就業者数の増加につなげていく。	
—		2014年9月23日カナダで開催された、第6回世界ジオパーク国際ユネスコ会議で再認定達成した。 今年度の再認定に向け、環境整備やトレイルコースの整備検討の実施など機運醸成等の取組を推進する。	
66.7	○	景観保全上重要な海岸松林を中心に保全対策を継続、地域活動による松林再生（松苗植栽及び育成）の活動が定着化、多様な主体による松林整備が少しずつ拡大している。 今後は、天然記念物・琴引浜周辺森林における森林を整備を地域団体等の活動により実施（1カ所・約1ha）。	
100.0	○	指定に係る地元説明会等により住民理解が進み、指定箇所数が年々伸び、2016年3月に100%指定を達成した。 災害に備えて、今後も警戒態勢を強化する。	



		単位	基準値（基準年）	数値目標（目標年）	2016年（度） ベンチマーク レポート 実績値（A）	2017年（度） ベンチマーク レポート 実績値（B）
98	新たな津波浸水区域を踏まえた市町防災計画の見直し支援対象数	市町	4（2013年度）	全4（2018年度）	4	4
99	がん検診を受診する人の割合（胃がん）	%	24（2013年度）	50（2018年度）	26.6	18.6
100	がん検診を受診する人の割合（肺がん）	%	43（2013年度）	50（2018年度）	39.7	21.2
101	がん検診を受診する人の割合（大腸がん）	%	40（2013年度）	50（2018年度）	43.8	21.5
102	がん検診を受診する人の割合（子宮がん）	%	41（2013年度）	50（2018年度）	57.1	28.4
103	がん検診を受診する人の割合（乳がん）	%	44（2013年度）	50（2018年度）	67.6	36.8
104	ゲートキーパー養成数	人	2,145（2012～13年度）	5,000（2018年度）	6,245	7,321
105	認知症サポーター養成数	人	11,180（2013年度）	13,000（2018年度）	18,231	20,226
106	地域力再生交付金や協働コーディネーターとの連携などによる地域力再生活動に取り組む団体数	団体	206（2013年度）	230（2018年度）	236	265
107	京都丹後鉄道利用人数	万人	186（2013年度）	200（2019年度）	181	178



進捗率 (%)	参考 年間目標 達成状況	数値変動の要因及び今後の取組内容	備 考
100.0	○	目標を達成したが、管内2市2町で災害発生時に適切な避難が実施できるよう防災計画の見直しや避難訓練、地域防災リーダー等への研修等を継続して支援する。	
-20.8		受診率の計算方法が変わったため、基準年と比較できない。 受診率向上に向けて、受診勧奨のキャンペーンのほか、事業所等を訪問するなど積極的に働きかけていく。	(A) 2015年度実績 (B) 2016年度実績
-311.4		受診率の計算方法が変わったため、基準年と比較できない。 2015年度に管内市で受診料を無料にした結果、受診者が増加したが、その反動で、2016年度は減少した。 受診率向上に向けて、受診勧奨のキャンペーンのほか、事業所等を訪問するなど積極的に働きかけていく。	(A) 2015年度実績 (B) 2016年度実績
-185.0		受診率の計算方法が変わったため、基準年と比較できない。 2015年度に管内市で受診料を無料にした結果、受診者が増加したが、その反動で、2016年度は減少した。 受診率向上に向けて、受診勧奨のキャンペーンのほか、事業所等を訪問するなど積極的に働きかけていく。	(A) 2015年度実績 (B) 2016年度実績
-140.0		受診率の計算方法が変わったため、基準年と比較できない。 2015年度に管内市で受診料を無料にした結果、受診者が増加したが、その反動で、2016年度は減少した。 受診率向上に向けて、受診勧奨のキャンペーンのほか、事業所等を訪問するなど積極的に働きかけていく。	(A) 2015年度実績 (B) 2016年度実績
-120.0		受診率の計算方法が変わったため、基準年と比較できない。 2015年度に管内市で受診料を無料にした結果、受診者が増加したが、その反動で、2016年度は減少した。 受診率向上に向けて、受診勧奨のキャンペーンのほか、事業所等を訪問するなど積極的に働きかけていく。	(A) 2015年度実績 (B) 2016年度実績
181.3	○	受講者延べ人数は目標の5,000人を大きく上回っている。2017年度は、昨年度から実施している看護師を対象とした自殺未遂者支援研修に加え、自殺と深い関係があるアルコール依存症についてセミナーを行った。 ゲートキーパーについては、引き続き、市町と連携し、養成研修を実施する予定である。	
497.0	○	延べ養成者数は目標の13,000人を大きく上回っている。 今後も引き続き市町の取組を中心として、フォローアップも含め、人材を育成していく。	
245.8	○	2011年度から設置した協働コーディネーターによる団体相談や広報等の支援策が認知、定着した。 今後も行政と民間、民間と民間など多様な協働を促進し、新たな連携創出や団体の活動充実を支援する。	
-57.1		台風や大雪による被害により運休する日が多く発生し利用者が減少した。 引き続き、沿線市町・関係団体・利用促進協議会と連携しながら利用増加に結びつく取組を実施した。	

### (3) 前年度の課題に対する対応状況

ベンチマークレポート [2017年9月] の「今後の課題」について、2018年度当初予算、6月補正予算で計上した主な事業は次のとおり

#### 丹後地域振興計画

今後の課題	主な事業等
<b>(1) 丹後地域の活性化を牽引する観光振興</b>	
☆「海の京都」の取組促進による滞在交流型の観光地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「丹後グルメ月間」推進事業</li> <li>・海の京都 食のブランディング事業</li> <li>・山陰海岸ジオパークステップアップ事業</li> </ul>
☆観光との連携による食関連産業の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域エリア周遊事業</li> <li>・丹後サイクル・リビングラボ展開事業</li> <li>・丹後・食の魅力発信事業</li> </ul>
<b>(2) ものづくり産業等地域産業の振興</b>	
☆人材確保のためのU・Iターン対策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後移住サポート事業</li> <li>・丹後企業力パワーアップ事業</li> </ul>
☆「丹後ちりめん創業300年」などの取組による丹後ブランドの発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「丹後ちりめん創業300年」事業</li> <li>・明日を担う「丹後の人」育成事業</li> </ul>
<b>(3) 府民生活の安心・安全の確保</b>	
☆地域の実情に応じた防災対策の推進と医療・介護・福祉の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「TANGO」防災強化事業</li> <li>・「健康長寿の丹後」プロジェクト事業</li> <li>・若い力で丹後を元気に！プロジェクト事業</li> </ul>
☆健康長寿に向けた生活習慣病の発症予防・重病化予防の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たんごアート&amp;デザインプロジェクト事業</li> </ul>
☆若者が誇りと愛着を持って暮らせる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明日を担う「丹後の人」育成事業</li> </ul>